



山口育児院だより

編集・発行 / 社会福祉法人 山口育児院 2014.11.第31号
 〒753-0082 山口市水の上町5-27 Tel 083-922-1027 Fax 083-922-2389
 e-mail y-ikuji@estate.ocn.ne.jp URL http://www1.ocn.ne.jp/~y-ikuji



洞春寺第二十三世 深野宗泉和尚晋山式

平成二十六年十月五日、山口市にある古刹、臨済宗建仁寺派洞春寺に於いて、第二十三世深野宗泉和尚の晋山式（住職就任式）が盛大に挙行されました。宗泉和尚は和歌山県出身。京都南禅寺専門道場で、洞春寺先代高山泰巖老大師、洞春寺先代日下元精老大師について修行。平成十七年十月に洞春寺副住職となりました。さらに、同二十二年十一月に社会福祉法人山口育児院の理事長に就任しております。

式には洞春寺の御出身である現臨済宗南禅寺派管長、香南軒中村文峰老大師を始めとする老大師方、その他全国より約百七十名の僧侶が参列しました。県会議事堂を安下所とし稚児を従えて晋山行列。山門では山門の偈を、本堂では晋山の偈を高らかに唱え、晋山の誓いを新たにいたしました。

山口育児院の職員は受付や駐車場係に、また児童も八名稚児として参加し、内二名は本堂に上がり献花をする等、理事長先生の晴れ舞台を児童職員皆で一生懸命お手伝いさせて頂きました。

当日は台風で悪天候が予想されましたが、宗泉和尚の法力か、或いは檀信徒の皆様の厚き信仰心の賜物か、風雨もなく天候も落ち着いて、洞春寺並びに育児院由縁の皆様方に見守られる中、無事円成の運びとなりました。会中、多くの方々に御協力御心遣い頂き、衷心より厚く御礼申し上げますと共に、今後とも御法愛を賜ります様、お願い申し上げます。



元気いっぱい、頑張っています！

夏から秋にかけて、育児院では今年も様々な行事がありました。八月には地藏まつりで児童職員一緒に坐禅をしました。毎年恒例の行事なので、子ども達も慣れてきてすっかりと坐れるようになってきています。日頃生意気な中高生の男の子達も、この時ばかりは神妙な顔をして坐ります。しかし、真面目に坐っているふりをしても、厳しい坊さんの目は誤魔化させません。警戒でしっかりと叩いてあげました（笑）。



十月には球技大会を行いました。毎年サッカーがメインですが、今年ドッチボールやリレー、パン食い競争もあり、競技も盛り沢山でした。

その他にもいろいろな行事があり、子ども達は元気いっぱい毎日頑張っています（勉強もしっかりやって欲しいのですが・・・）。何はともあれ、子ども達が皆仲良く元気でいてくれることが一番の喜びです。

歩々清風

今号より、広報紙のサイズを大きくしました。内容は変わらず拡大しただけですが、引き続き宜しく願っています。

十月の洞春寺晋山式には全国より大勢の方がお越し下さいました。僧侶だけでも約百七十名と、本当に大きな行事でした。育児院の子ども達もさぞかし緊張するだろうなと思っただけでしたが、日頃からお坊さんを見慣れている子ども達は全く臆することなく、寧ろ顔見知りのお坊さん達と話をするなど、楽しんでいました（笑）。

明治以降の洞春寺住職の歴史はそのまま育児院の歴史となります。洞春寺由縁の多くの皆様に育児院は支えられています。感謝の気持ちを忘れないよう、新任職を中心にこれからも精進してまいりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

(T)

御案内

育児院では、地域の方々に施設を利用していただく為に、いろいろなサービスを実施しています。

トワイライトサービス

仕事の関係で帰宅が夜間になる方、お子さんの下校時より仕事終了時迄お預かり致します。

短期入所サービス

病氣、事故、出産等でお子さんの養育が難しくなった時等、短期間お預かり致します。

当院をご利用ご希望の方はお気軽にご連絡下さい。又ボランティアの受け入れもしております。

福祉に関心のある方、是非一度ご来院下さい。



山門偈

喝

東三矢貫一心
掲隻履透這関

右

宗泉未定敲

山門偈と晋山偈

晋山式では、山門をくぐる時と本堂に上がった時に、漢詩の偈をお唱えします。これからこの山（洞春寺は山号を「正宗山」と言います）に入るにあたって、新命和尚（新しく住職になる和尚）がどれだけの覚悟を持っているのか「生半可な気持ちでは山門をくぐらせんぞ」と門看師が山門の前で仁王立ちし問答を仕掛けます。それに対し、新命和尚はどういう覚悟でこの門をくぐるうとするのかを偈という形で表すのです。そうして山門を無事にくぐる事ができた新命和尚は本堂に上がり、さらに住職になる意気込みを偈で示します。どちらとも、いい加減な境涯では認めてもらえません。この寺で住職をする資格があるかどうか、力量を試されるわけですから。上記の二つの偈は、今回の晋山式で宗泉和尚がお唱えしたものです。偈はそのまま味わうのが良いので敢えて解説はしません。さて、宗泉和尚の境涯や如何に・・・？

洞春寺第二十二世

清光軒日下元精老大師退山式

平成二十六年十月五日、山口市の臨濟宗建仁寺派洞春寺に於いて、第二十二世日下元精老大師の退山式が行われました。これは深野宗泉和尚の洞春寺晋山に先立って行われたものです。

日下元精老大師は平成十年に先々代高山泰巖老大師の遷化を機に晋山されましたが、洞春寺だけでは

なく京都の南禅寺専門道場の師家、さらには山口育児院の理事長も兼務しておられました。山口育児院の理事長職は平成二十二年に宗泉和尚に譲っておられますが、今後は洞春寺の後事を宗泉和尚に託し、専門道場で後進の育成に専念されることとなります。

当日は宗泉和尚の晋山式と一緒に行われたため多くの方々の前で挨拶をされましたが、翌六日朝には、十六年前に洞春寺に來られた時と同じ草鞋に脚絆という行脚姿でひっそりと出立をされました。

「古清軒老大師（高山泰巖老大師）に引き際の難しさと大切さを教えて頂いた」と常々話しておられましたが、そうなることこの記事自体が余計なことだとお叱りを受けるかもしれません。しかし、その「本物の姿」に教わることは多く、そういう師匠の姿を見ることのできる雲水さん達は本当に幸せだと思います。これまで本堂にお世話になり、有難うございました。



稚児さんになって

十月五日に晋山式がありました。私は、稚児さんとして参加しました。初めての稚児のいしよは、最初は着方が分からなくて、迷ってしまいました。お坊さんがやさしくおしえてくださってなんとか着ることができました。全部着終ると、写真撮影がありました。とびつきの笑顔で写真をとりました。みんなが「かわいいね」と言ってくれたので少し照れてしまいました。

小四 女児



県庁から出ると、早くも見ている人がいて、すぐきんちようししました。とくに、私と弟は一番先頭を歩いたので、とくに目立ちました。また、こういうときに限ってなかなか笑顔ができませんでした。少し残念です。

洞春寺にいいよ着くとき、育児院のみんなが待っていて、私達の稚児姿を見てビックリした顔をしていました。みんな「すーい」や「いいな」と言っていました。そして、洞春寺に着くと、私と弟以外は、客席に戻っていました。私と弟は献花をするのでお坊さんたちのお話が終わるまで、少し立っていました。前の日にお坊さんに教えてもらって練習をしましたが、本番ではすぐ後ろに育児院のみんながいたのでドキドキしました。そしていよいよ私達の献花をするときがやってきました。失敗せずにできてホッと思いました。とてもうれしかったです。こういうことに参加できていい経験になりました。

小慈妨大慈 慈悲とは

武重俊之

育児院には以前、明治の元勳、井上馨公の書かれた「小慈妨大慈」と書かれた額が掛けられていたそうです。これは「小慈は大慈を妨げる」と読みますが、児童養護施設にはびっぴりの言葉だと思いません。

「慈」とは慈しみ、思いやり、愛情という意味ですが、それはただ単に可愛がるということではありません。単なる「可愛い」という気持ちだけでは甘やかしとなり、結果的にその子の精神的成長を阻害してしまうことになりかねません。そういう愛情を「小慈」と言います。それに対して、子どもを愛情をもって厳しく躾け教育する、そのような愛情を「大慈」と言います。これは、一見情け容赦ない非情な行為に映るかもしれませんが、優れた人格を育てる為には必要なことかもしれません。つまり、「小慈妨大慈」とは、姑息な愛情はかえってその子を駄目にしてしまうという意味だと考えて良いでしょう。

先般、京都に於いて全国児童養護施設長研究協議会があり、その初日に記念講演として京セラの名譽会長、稲盛和夫氏がお話をされました。稲盛氏は臨濟宗の僧籍も持つておられますが、その話の中で、「少善は大悪に似たり 大善は非情に似たり」という言葉を紹介されました。これはまさに「小慈妨大慈」と同じことを言っているのではないのでしょうか。施設の中にも、子どもと仲良くしたいという思いが強すぎるが故に逆に子どもを叱れなくなり、単に子どもに迎合しているだけになってしまっているようなことがないでしょうか。もしあるとするならば、それはまさしく「小慈」です。子どもを駄目にしてしまっているかもしれません。

真の愛情とは何か？本当に子どもの為になる関わりとは何か？己に厳しさがなければ分からないことかもしれません。今一度自身自身に問いなおしてみる必要があるそうです。